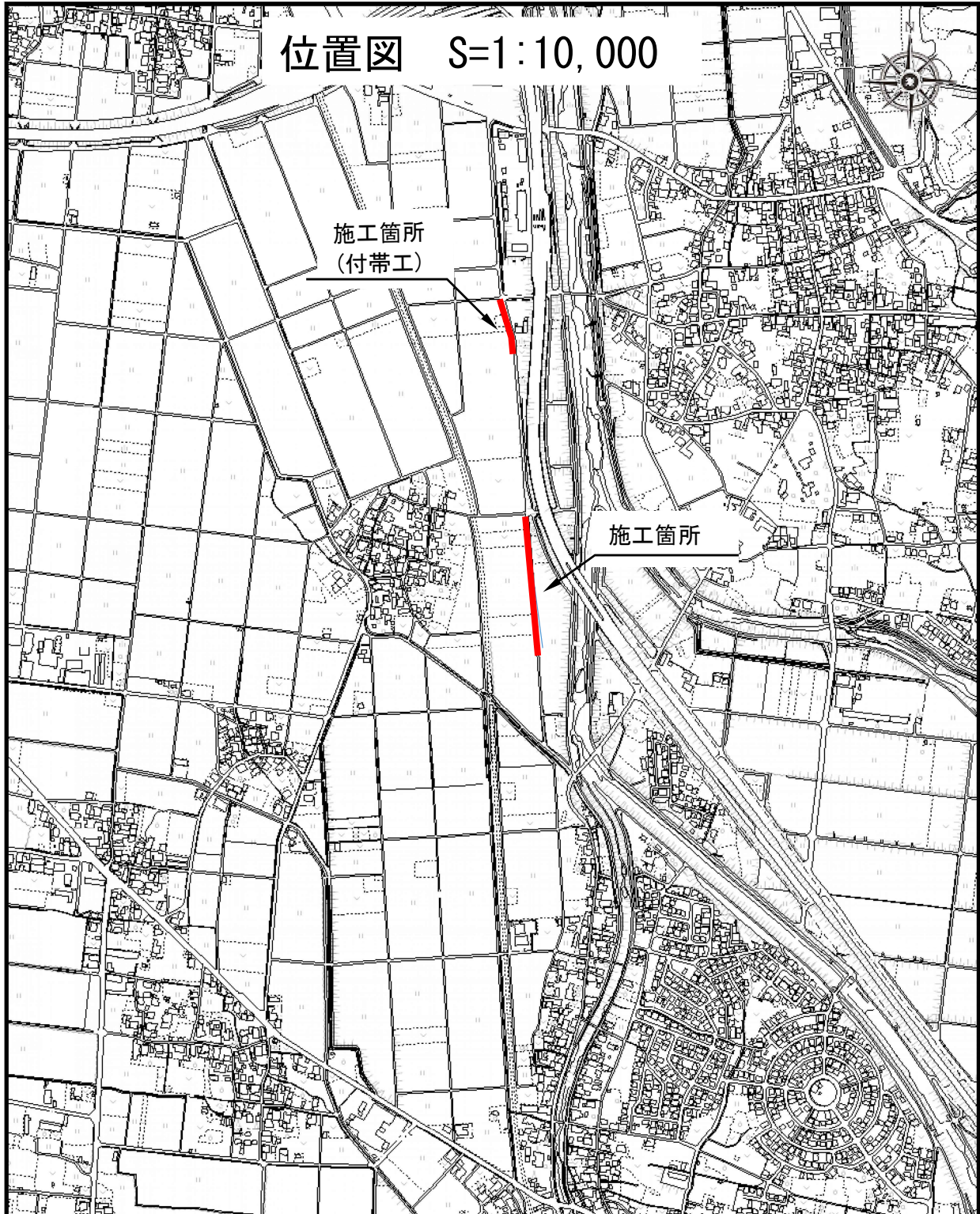


位置図 S=1:10,000



1 仕様書

この契約において仕様書とは、特に定めのない限り「鳥取県土木工事共通仕様書」をいう。

2 下請関係の合理化について

- (1) この契約に係る工事的確かな施工を確保するため、下請契約を締結しようとする場合は、「建設産業における生産システム合理化指針」及び「鳥取県建設工事における下請契約等適正化指針」の趣旨に則り、優良な専門工事業者の選定、合理的な下請契約の締結、代金支払等の適正な履行、適正な施工体制の確立、下請における雇用管理等の指導等を行い本指針の遵守に努めること。
- (2) 中小建設業者に対する取引条件の適正化及び資金繰りの安定化等に資するため、元請業者は下請業者に対して、発注者から受取った前払金の下請業者への支払い、下請代金における現金比率の改善、手形期間の短縮等、下請代金支払の適正化について配慮すること。
- (3) 請負者は、下請契約を締結した場合は、施工体制台帳及び施工体系図を発注者に速やかに提出しなければならない。また、当該施工体制台帳及び施工体系図下に変更があったときは、変更が生じた日から20日以内（完成時においては、完成通知書の提出時）に変更後の書類を提出しなければならない。
- (4) 工事の一部を第三者に請け負わせる場合、又は工事に伴う交通誘導等の業務を第三者に委託する場合には、市内及び県内業者（以下「市内業者等」という。）との契約に努めること（優先順位は市内、県内の順位とする）。ただし、技術的に施工又は対応できる市内業者等がない工事等を請け負わせ又は業務を委託する場合、あるいは市内業者等で施工できても工程的に間に合わない等、特段の理由がある場合は、この限りでない。

3 建設資材等について

- (1) 工事に使用する資材については適法に生産されたものとする。
- (2) この契約に係る建設資材納入業者との契約に当たっては、当該業者の利益を不当に害しないよう公正な取引を確保するよう努めること。
- (3) 工事に使用する資材については、「県土整備部リサイクル製品使用基準」に基づき、リサイクル製品を積極的に活用すること。
- (4) リサイクル製品以外の工事に要する資材の使用順位は、次のとおりとする。
 - ① 市内産の資材がある場合は、市内産の資材の使用に努めること。ない場合は、県内産について同様の取り扱いとする。
 - ② 県外産の資材を使用する場合は、市内に本社又は営業所、支店等を有する販売業者（以下「市内販売業者」という。）から購入した資材の使用に努めること。市内販売業者がないときは、県内販売業者について同様の取り扱いとする。ただし、当該資材について市内販売業者又は県内販売業者がない場合は、この限りでない。

4 工事の安全確保について

この契約に係る工事の施工に当たっては、労働安全衛生法、労働安全衛生規則等を遵守し、労働災害の防止に努め、また工事中の交通事故防止について、特に留意すること。

5 建設機械の使用について

- (1) 標準操作方式建設機械を使用するよう努めること。
- (2) 施工現場及びその周辺環境改善を図るため、低騒音型・低振動型の建設機械を使用するよう努めること。
- (3) 排ガス対策型建設機械の使用については、排ガス対策型建設機械の使用基準について（平成17年11月15日付第200500080172号県土整備部長通知）によること。

6 団体加入車の使用促進について

「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（以下「法」という。）の目的に鑑み、法第12条に規定する団体の設立状況を踏まえ、同団体への加入車の使用を促進するよう努めること。

7 ダンプトラック等による運搬について

- (1) 積載重量制限を超えて工事用資機材等を積み込まず、また積み込ませないようすること。
- (2) さし柵装着車、不表示車等による違法運行は行わず、また行わせないようにすること。
- (3) 過積載車両、さし柵装着車、不表示車等から工事用資機材等の引渡しを受ける等、過積載を助長することのないようにすること。
- (4) 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし柵装着車、不表示車等による違法運行を行っている場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
- (5) 建設副産物の処理及び工事用資機材等の搬入・搬出等に当たって、下請事業者及び工事用資機材等納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
- (6) 過積載を行っている資材納入業者から資材を購入しないこと。
- (7) 産業廃棄物の運搬車については、車体の外側に、環境省令で定めるところにより、産業廃棄物の収集又は運搬の用に供する運搬車である旨その他の事項を見やすいように表示し、かつ、当該運搬車に環境省令で定める書面を備え付けること。また、産業廃棄物処理業者に委託して産業廃棄物を運搬する場合、この表示、備え付けを行わせること。
- (8) 以上のことにつき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導すること。

8 不正軽油使用の禁止について

工事現場で使用し、又は使用させる車両（資機材等の搬入車両を含む）並びに建設機械等の燃料として、地方税法（昭和25年法律第226号）に違反する軽油等を使用しないこと。

9 建設業退職金共済制度への加入等

- (1) 建設業者は、建設業退職金共済制度（以下「建退共」という。）に加入すると共に、その建退共の対象となる労働者について証紙を購入し、当該労働者の共済手帳に証紙を貼付すること。ただし、下請けを含むすべての労働者が、中小企業退職金共済制度、清酒製造業退職金共済制度、林業退職金制度のいずれかに既に加入済みで、建退共に加入することができないと認められる場合は、この限りでない。
- (2) 建設業者が下請契約を締結する際は、下請業者に対してこの制度の趣旨を説明し、原則として証紙を下請の延労働者数に応じて現物交付することにより、下請業者の建退共加入及び証紙の貼付を促進すること。なお、現物を交付することができない場合は、掛金相当額を下請代金中に算入することとし、契約書等に明記すること。
- (3) 請負業者は、工事現場に「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」の標識を掲示すること。

10 建設業法の遵守について

- (1) 建設業法（昭和24年法律第100号）に違反する一括下請その他不適切な形態の下請契約を締結しないこと。
- (2) 建設業法第26条の規定により、請負業者が工事現場ごとに設置しなければならない専任の主任技術者または、専任の監理技術者については、適切な資格、技術力を有する者（工事現場に常駐して専らその職務に従事するもので、請負業者と直接的かつ恒常的な雇用関係にある者に限る。）を配置すること。
- (3) 請負業者が工事現場ごとに置かなければならない専任の監理技術者は、1級施工管理技士等の国家資格者等で監理技術者資格者証の交付を受けている者を配置すること。この場合において、発注者から請求があったときは監理技術者資格者証を提示すること。
- (4) 建設業法第40条の規定により、請負業者は建設現場ごとに「建設業の許可票」を掲示すること。
- (5) 上記のほか、建設業法等に抵触する行為は行わないこと。

11 労働基準法の遵守

この契約に係る工事の施工に当っては、労働基準法等の趣旨に則り法定労働時間週40時間を遵守すること。

12 建設業からの暴力団排除の徹底について

- (1) 工事の施工に際し、暴力団等の構成員又はこれに準ずる者から不当な要求や妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、監督員に速やかにその旨を報告するとともに、警察に届出を行い、捜査上必要な協力を行うこと。
- (2) この場合において、工程等を変更せざるを得なくなったときは、速やかに監督員に協議すること。

13 現場代理人、追加技術者、主任技術者及び監理技術者の雇用関係について

- (1) 工事現場に配置する技術者等（技術者等とは、現場代理人、追加技術者、主任技術者、監理技術者及び技能士をいう。）は、所属建設業者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあるものでなければならない。
- (2) 直接的雇用とは、技術者等とその所属建設業者との間に第三者の介入する余地のない雇用に関する一定の権利義務関係（賃金、労働時間、雇用及び権利構成）が存在することをいい、恒常的な雇用関係とは一定の期間（3か月以上）にわたり当該建設業者に勤務し、日々一定時間以上職務に従事することが担保されていることに加え、技術者等と所属建設業者が双方の持つ技術力を熟知し、建設業者が責任を持って技術者等を工事現場に配置できるとともに技術者等が建設業者が有する技術力を、十分かつ円滑に活用して工事の監理等の業務を行うことができることをいう。

14 労働者の福祉向上について

- (1) 建設労働者の適切な賃金水準の確保、社会保険等（雇用保険、健康保険及び厚生年金保険）への加入など、労働者の福祉向上に努めること。なお、健康保険等の適用を受けない建設労働者に対しても、国民健康保険等に加入するよう指導に努めること。
- (2) 下請契約の締結に際しては、下請業者へ法定福利費を内訳明示した見積書（標準見積書という。）の提示を求め、提示された場合にはこれを尊重するとともに、社会保険等の法定福利費などの必要経費を適切に考慮するように努めること。

15 産業廃棄物の処理に係る税について

この契約に係る工事で発生する建設廃棄物のうち、鳥取県、岡山県、広島県等の産業廃棄物の処理に係る税条例を施行している自治体内に搬入する建設廃棄物については、産業廃棄物の処理に係る税が課税される場合があるので適切に処理すること。

16 コンクリート構造物に使用するコンクリートの水セメント比

コンクリート構造物の耐久性を向上させるため、一般環境条件の場合のコンクリート構造物に使用するコンクリートの水セメント比は、鉄筋コンクリートについては5.5パーセント以下、無筋コンクリートについては6.0パーセント以下とする。

17 消費税及び地方消費税の適正転嫁等について

下請契約及び資材購入等において、消費税の円滑かつ適正な転嫁の確保のための消費税の転嫁を阻害する行為の是正等に関する特別措置法（平成25年法律第41号）で禁止された転嫁拒否等行為を行わないなど、適切な対応を行うこと。

18 その他

- (1) 工事施工管理資料等については簡略化名称を使用できることとする。ただし、略称については、発注者と協議の上重複しないよう注意し、また、わかりやすく簡単なものとする。
- (2) コンクリート構造物については、「コンクリート構造物ひびわれ抑制対策指針」に基づき施工するものとする。
- (3) 建設副産物のリサイクル、熱帯木材型枠の削減等、環境対策について積極的に取り組むこと。
- (4) 労務費については、法定労働時間週40時間を考慮したものとしている。
- (5) 請負業者が本工事の一部について下請契約を締結する場合には、請負業者は、当該下請工事の受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。）においても同様の義務を負う旨を定めなければならない。

(6) ほ装単独工事（アスファルト）においては、表層工、基層工及び上層路盤工を自社施工しなければならない。ただし、表層工、基層工及び上層路盤工であっても特殊工法部分についてはこの限りでない。

(7) 契約書第25条第5項及び第6項の対応については、鳥取県県土整備部「建設工事請負契約書第25条第5項の運用」、「賃金等の変動に対する工事請負契約書第25条第6項（インフレスライド条項）運用マニュアル」に基づき請求を行うこと。

現場説明書

特記事項2

	<p>【建設発生土（処理）】</p> <p>①（他工事等流用）</p> <p>②（建設技術センター）</p> <p>③（民間残土受入地）</p>	<p>建設発生土は_____市・町・村_____地内の_____</p> <p>工事現場に運搬（片道運搬距離_____km）するものとする。</p> <p>建設発生土は_____市・町・村_____地内のセンター事業所に運搬（片道運搬距離_____km）するものとする。なお、処理費として、1m³当たり円をセンターに支払うこと。</p> <p>建設発生土は<u>米子</u>市・町村<u>尾高</u>地内の（<u>有</u>）<u>小倉興産</u>に運搬（片道運搬距離<u>8.2</u> km）するものとする。なお、処理費として、1m³当たり<u>1,330</u>円を支払うこと。</p>
建設 副 産 物 の 処 理	<p>【コンクリート塊・アスファルト塊・建設発生木材（処理）】</p> <p>④（分別解体等）</p> <p>⑤（他工事等流用）</p> <p>⑥（再資源化施設への搬出）</p> <p style="text-align: center;">（施設の名称・受入れ費用）</p> <p style="text-align: center;">（受入れ時間帯）</p> <p style="text-align: center;">（受入れ条件）</p> <p>⑦（木材市場等へ売却）</p> <p>⑧（最終処理等）</p> <p>⑨（産業廃棄物の処理に係る税）</p>	<p>コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材は、現場内において分別解体するものとする。その方法は、別表のとおりとする。</p> <p>なお、その費用を下記のとおり見込んでいる。</p> <p>コンクリート塊 1m³当り _____円</p> <p>アスファルト塊 1m³当り <u>146.4</u>円</p> <p>建設発生木材 1m³当り _____円</p> <p>[Co 雑割材・ _____]は、_____市・町・村_____地内 _____工事現場に運搬（片道運搬距離_____km）するものとする。</p> <p>コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材等は、再生資源として、下記の再資源化施設への搬出を見込んでいる。これは、他の施設へ搬出を妨げるものではないが搬出先を変更する場合は理由を付して協議を行うこと。</p> <p>再資源化施設業者等と書面による委託契約を行うとともに、運搬車両ごとに manifests を発行するものとする。</p> <p>なお、再資源化施設へ搬出が完了したときは、書面により報告すること。</p> <p>コンクリート塊 _____市・町・村_____地内の _____（運搬距離_____km）、費用 1t 当り _____円</p> <p>アスファルト塊 <u>米子</u>市・町村<u>淀江町</u>稲吉 地内の（<u>株大協組</u>）（運搬距離<u>9.9</u> km）、費用 1t 当り <u>1,100</u>円</p> <p>建設発生木材 _____市・町・村_____地内の _____（運搬距離_____km）、費用 1t 当り _____円</p> <p>その他（ _____ ） _____市・町・村_____地内の _____（運搬距離_____km）、費用 1t 当り _____円</p> <p>8時～17時（平日）</p> <p>ア 路盤材、土砂、金属片等が、混入していないこと。</p> <p>イ コンクリート塊、アスファルト塊の径は500mm以下であること。</p> <p>ウ 建設発生木材に関しては、泥等の付着がなく、径 _____cm 以下、長さ _____m 以下であること。</p> <p>エ 2次公害発生の恐れがある物質（廃油等）を含まないこと。</p> <p>建設発生木材は _____市・町・村_____地内の _____への搬出（片道運搬距離_____km）を想定し、 _____円を見込んでいる。これは、他の木材市場等への売却を妨げるものではないが、売却先を変更する場合は理由を付して協議すること。</p> <p>_____については、 _____市・町・村 _____地内の産業廃棄物処理場への搬出（片道運搬距離_____km）を想定し、その費用として 1t 当たり _____円を見込んでいる。これは、他の施設へ搬出を妨げるものではないが、搬出先を変更する場合は協議を行うこと。</p> <p>産業廃棄物処理業者等と書面による委託契約を行うとともに、運搬車両ごとに manifests を発行するものとする。</p> <p>産業廃棄物の処理に係る税に相当する額を _____円見込んでいる。</p>

現場説明書

特記事項3

建設副産物の使用	<p>① (建設発生土の使用) _____</p> <p>② (再生資材の使用)</p> <p>③ 〇ofr</p>	<p>_____ 工事から [当該工事運搬・相手方運搬] の建設発生土を受入れ、使用箇所：_____ に使用する。</p> <p>1) C〇雑割材は、_____ 工事から運搬し、使用箇所：_____ に使用する。</p> <p>2) アスファルト・コンクリート切削殻は、_____ 工事から運搬し、使用箇所：_____ に使用する。</p> <p>3) ・再生クラッシャーラン [規格： RC-30] は、使用箇所：_____ 路盤材 _____ に使用する。 ・再生コンクリート砂 [規格：RS- _____] は、使用箇所：_____ に使用する。</p> <p>4) 再生加熱アスファルト混合物 [規格： _____] は、使用箇所：_____ に使用する。</p> <p>5) その他再生資材 [資材名： _____] [規格： _____] は、使用箇所：_____ に使用する。</p>												
工事用														
仮設備														
その他	<p>① (労災補償に必要な保険の付保)</p> <p>② (現場環境改善)</p>	<p>本工事において、請負者は労災補償に必要な任意の保険契約を締結すること。なお、この労災補償に必要な保険契約の保険料を予定価格に反映している。</p> <p>本工事は、現場環境改善 (率計上分) 実施対象工事と [する・もな]。</p> <p>下表の内容のうち原則として各費目 (仮設備関係、営繕関係、安全関係及び地域連携) ごとに1実施内容ずつ (いずれか1項目のみ2実施内容) の合計5つの実施内容を実施すること。港湾及び漁港事業は、項目に防災・危機管理関係を含めることができる。</p> <p>実施に当たっては、施工計画書に実施内容及び実施時期を記載し、実施後に監督員に写真等を提出すること。</p> <p>地域の状況・工事内容により組み合わせ、費目数及び実施内容を変更する場合は、原則として設計変更は行わないが、その内容 (目的に資するものであること) について監督員の確認を受けること。</p> <p>1内容も実施困難な場合は、監督員と協議の上、設計変更により率計上は行わない。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">計上費目</th> <th>実施内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>仮設備関係</td> <td>1. 用水・電力等の供給設備, 2. 緑化・花壇 3. ライトアップ施設, 4. 見学路及び椅子の設置 5. 昇降設備の充実, 6. 環境負荷の低減</td> </tr> <tr> <td>営繕関係</td> <td>1. 現場事務所の快適化 (女性用更衣室の設置を含む) 2. 労働者宿舎の快適化 3. デザインボックス (交通誘警備員待機室) 4. 現場休憩所の快適化 5. 健康関連設備及び厚生施設の充実等</td> </tr> <tr> <td>安全関係</td> <td>1. 工事標識・照明・安全具等安全施設のイメージアップ (電光式標識等) 2. 盗難防止対策 (警報機等) 3. 避暑 (熱中症予防)・防寒対策</td> </tr> <tr> <td>地域連携</td> <td>1. 完成予想図, 2. 工法説明図, 3. 工事工程表 4. デザイン工事看板 (各工事PR看板含む) 5. 見学会等の開催 (イベント等の実施含む) 6. 見学所 (インフォメーションセンター) の設置及び管理運営 7. パンフレット・工法説明ビデオ 8. 地域対策費等 (地域行事等の経費を含む) 9. 社会貢献</td> </tr> <tr> <td>防災・危機管理関係 (港湾・漁港事業)</td> <td>1. 防災訓練 (地震・台風等の自然災害に対する訓練)</td> </tr> </tbody> </table>	計上費目	実施内容	仮設備関係	1. 用水・電力等の供給設備, 2. 緑化・花壇 3. ライトアップ施設, 4. 見学路及び椅子の設置 5. 昇降設備の充実, 6. 環境負荷の低減	営繕関係	1. 現場事務所の快適化 (女性用更衣室の設置を含む) 2. 労働者宿舎の快適化 3. デザインボックス (交通誘警備員待機室) 4. 現場休憩所の快適化 5. 健康関連設備及び厚生施設の充実等	安全関係	1. 工事標識・照明・安全具等安全施設のイメージアップ (電光式標識等) 2. 盗難防止対策 (警報機等) 3. 避暑 (熱中症予防)・防寒対策	地域連携	1. 完成予想図, 2. 工法説明図, 3. 工事工程表 4. デザイン工事看板 (各工事PR看板含む) 5. 見学会等の開催 (イベント等の実施含む) 6. 見学所 (インフォメーションセンター) の設置及び管理運営 7. パンフレット・工法説明ビデオ 8. 地域対策費等 (地域行事等の経費を含む) 9. 社会貢献	防災・危機管理関係 (港湾・漁港事業)	1. 防災訓練 (地震・台風等の自然災害に対する訓練)
計上費目	実施内容													
仮設備関係	1. 用水・電力等の供給設備, 2. 緑化・花壇 3. ライトアップ施設, 4. 見学路及び椅子の設置 5. 昇降設備の充実, 6. 環境負荷の低減													
営繕関係	1. 現場事務所の快適化 (女性用更衣室の設置を含む) 2. 労働者宿舎の快適化 3. デザインボックス (交通誘警備員待機室) 4. 現場休憩所の快適化 5. 健康関連設備及び厚生施設の充実等													
安全関係	1. 工事標識・照明・安全具等安全施設のイメージアップ (電光式標識等) 2. 盗難防止対策 (警報機等) 3. 避暑 (熱中症予防)・防寒対策													
地域連携	1. 完成予想図, 2. 工法説明図, 3. 工事工程表 4. デザイン工事看板 (各工事PR看板含む) 5. 見学会等の開催 (イベント等の実施含む) 6. 見学所 (インフォメーションセンター) の設置及び管理運営 7. パンフレット・工法説明ビデオ 8. 地域対策費等 (地域行事等の経費を含む) 9. 社会貢献													
防災・危機管理関係 (港湾・漁港事業)	1. 防災訓練 (地震・台風等の自然災害に対する訓練)													

※明示する項目を _____ 部分に記入又は追記し、不要部分は _____ で削除して使用すること。

積算参考資料

積算参考資料は、工事目的物を完成させるための手段を拘束するものではありません。

事業名	土地改良事業 赤井手
工事名	赤井手地区農道舗装工事

名称(規格)	数量	単位	単価	金額	備考
直接工事費(仮設工を除く)					
・土工					
・・作業土工	1.000	式			
・・・掘削	1.000	式			1式当たり
SP 掘削 土砂,上記以外(小規模),-,-,-,標準以外,-,-,-	28.000	m3			歩A・単A S単 5号
合 計					
・・残土処理	1.000	式			
・・・残土運搬	1.000	式			1式当たり
SP 土砂等運搬 小規模,ハツ杓山積0.28m3(平積0.2m3),土砂(岩塊・玉石混り土含む),無し,1 0.0km以下	28.000	m3			歩A・単A S単 6号
米子市尾高 (南小倉興産)	28.000	m3			歩A・単A S単 2号
合 計					
・コンクリート工	1.000	式			
・・コンクリート工	1.000	式			
・・・張コンクリート	1.000	式			1式当たり
張コンクリート t=7cm	58.000	m ²			歩A・単A T単 1号
合 計					
・道路工	1.000	式			
・・舗装工	1.000	式			
・・・表層	1.000	式			1式当たり
SP 表層(車道・路肩部) 1.4m未満1層仕上厚50mm以下,30mm,アスファルト混合物 (2.35t/m ³),プライムコト PK-3,再生密粒度アスコン(13)	219.000	m ²			歩A・単A S単 14号
合 計					
・・・路盤	1.000	式			1式当たり
SP 下層路盤(車道・路肩部) 100mm,1層施工,砕石,なし,再生クラッシャー RC-30	186.000	m ²			歩A・単A S単 13号
合 計					
・構造物撤去工	1.000	式			
・・構造物取壊し工	1.000	式			
・・・舗装版切断	1.000	式			1式当たり
SP 舗装版切断 アスファルト舗装版,15cm以下,-,-	165.000	m			歩A・単A S単 9号
合 計					
・・・舗装版破碎	1.000	式			1式当たり
SP 舗装版破碎 アスファルト舗装版,無し,不要,15cm以下,-,有り,なし	33.000	m ²			歩A・単A S単 8号
合 計					
・・・殻運搬処理	1.000	式			1式当たり
SP 殻運搬 舗装版破碎,機械積込(小規模土工),無し,12.0km以下	1.000	m3			歩A・単A S単 7号

事業名	土地改良事業 赤井手
工事名	赤井手地区農道舗装工事

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
*** S単 - 1号 ***						
	交通誘導警備員B		人		1.000 人	歩A 当たり算出
	交通誘導警備員B			冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし	豪雪補正:10% 基本給時間:8.0	
	1)労務コード 2)労務単価算定区分			超勤時間:0.0 公社割引補正:なし	深夜時間:0.0 週休:補正なし	
				時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0	
	交通誘導警備員B	1.000	人			
	合計					算出数量 1.000 人
	単価					
*** S単 - 2号 ***						
	米子市尾高 (有)小倉興産		m3		1.000 各単位	歩A 当たり算出
	米子市尾高 (有)小倉興産			冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし	豪雪補正:10% 基本給時間:8.0	
	1)地域資材単価コード 2)資材規格 3)単価の入力			超勤時間:0.0 公社割引補正:なし	深夜時間:0.0 週休:補正なし	
				時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0	
	米子市尾高 (有)小倉興産	1.000	m3			
	合計					算出数量 1.000 各単位
	単価					
*** S単 - 3号 ***						
	米子市淀江町稲吉 (株)大協組		ton		1.000 各単位	歩A 当たり算出
	米子市淀江町稲吉 (株)大協組			冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし	豪雪補正:10% 基本給時間:8.0	
	1)地域資材単価コード 2)資材規格 3)単価の入力			超勤時間:0.0 公社割引補正:なし	深夜時間:0.0 週休:補正なし	
				時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0	
	米子市淀江町稲吉 (株)大協組	1.000	ton			
	合計					算出数量 1.000 各単位
	単価					
*** S単 - 4号 ***						
	開水路目地補修工(充填工)		m		100.000 m	歩A 当たり算出
	開水路目地補修工(充填工) 機械はつり,2.00,弾性シーリング材,4.00,バックアップ材有り			冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし	豪雪補正:10% 基本給時間:8.0	
	1)作業区分 2)目地材(充填材)設計量(L/100m) 3)目地材(充填材)規格 4)目地材(充填材)単価(円/L) 5)プライマー設計量(L/100m) 6)プライマー単価(円/L) 7)バックアップ材の有無	機械はつり 2.00 弾性シーリング材 4.00 バックアップ材有り		超勤時間:0.0 公社割引補正:なし	深夜時間:0.0 週休:補正なし	
				時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0	
	土木一般世話役	1.600	人			
	特殊作業員	3.800	人			
	普通作業員	3.400	人			
	諸雑費(1)	0.160				
	土木一般世話役	1.500	人			
	特殊作業員	5.800	人			
	普通作業員	2.200	人			
	目地材(充填材) 弾性シーリング材	2.400	L			
	プライマー 充填目地用	4.800	L			

事業名	土地改良事業 赤井手
工事名	赤井手地区農道舗装工事

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
	諸雑費(2)	0.110				
	合計					算出数量 100.000 m
	単 価		m			
	*** S単 - 5号 ***					
	SP 掘削		m3		1.000 m3	歩A 当たり算出
	SP 掘削 土砂,上記以外(小規模),-, -, -,標準以外,-, -, -			冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0 公社割引補正:なし 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	豪雪補正:10% 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)土質	土砂				
	2)施工方法	上記以外(小規模)				
	3)岩質	-				
	4)押土の有無	-				
	5)障害の有無	-				
	6)施工数量	標準以外				
	7)火薬使用	-				
	8)破砕片除去の有無	-				
	9)集積押土の有無	-				
	単 価		m3			
	*** S単 - 6号 ***					
	SP 土砂等運搬		m3		1.000 m3	歩A 当たり算出
	SP 土砂等運搬 小規模,ﾊﾞｯｸﾙ山積0.28m3(平積0.2m3),土砂(岩塊・玉石混り土含む) ,無し,10.0km以下			冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0 公社割引補正:なし 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	豪雪補正:10% 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)土砂等発生現場	小規模				
	2)積込機種・規格	ﾊﾞｯｸﾙ山積0.28m3(平積0.2m3)				
	3)土質	土砂(岩塊・玉石混り土含む)				
	4)DID区間の有無	無し				
	5)運搬距離	10.0km以下				
	単 価		m3			
	*** S単 - 7号 ***					
	SP 殻運搬		m3		1.000 m3	歩A 当たり算出
	SP 殻運搬 舗装版破砕,機械積込(小規模土工),無し,12.0km以下			冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0 公社割引補正:なし 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	豪雪補正:10% 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)殻発生作業	舗装版破砕				
	2)積込工法区分	機械積込(小規模土工)				
	3)DID区間の有無	無し				
	4)運搬距離	12.0km以下				
	単 価		m3			
	*** S単 - 8号 ***					
	SP 舗装版破砕		m ²		1.000 m ²	歩A 当たり算出
	SP 舗装版破砕 ﾌﾞﾗｯｸ舗装版,無し,不要,15cm以下,-,有り,なし			冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0 公社割引補正:なし 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	豪雪補正:10% 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)舗装版種別	ﾌﾞﾗｯｸ舗装版				
	2)障害等の有無	無し				
	3)騒音振動対策	不要				
	4)舗装版厚	15cm以下				
	5)Co+As(ｶﾞｰ)舗装によるAs舗装	-				
	6)積込作業の有無	有り				

事業名	土地改良事業 赤井手
工事名	赤井手地区農道舗装工事

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
	7)長期割引単価区分					
	単 価		m			
	*** S単 - 9号 ***					
	SP 舗装版切断		m		1.000 m	歩A 当たり算出
	SP 舗装版切断 アスファルト舗装版,15cm以下,-,-			冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0 会社割引補正:なし 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	豪雪補正:10% 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)舗装版種別	アスファルト舗装版				
	2)アスファルト舗装版厚	15cm以下				
	3)コンクリート舗装版厚	-				
	4)コンクリート+アスファルト(加-)舗装版	-				
	単 価		m			
	*** S単 - 10号 ***					
	SP コンクリート		m3		1.000 m3	歩A 当たり算出
	SP コンクリート 無筋・鉄筋構造物,人力打設,計上する,-,一般養生,-,無し,-,18-8-40(高炉B) W/C65%			冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0 会社割引補正:なし 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	豪雪補正:10% 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)構造物種別	無筋・鉄筋構造物				
	2)打設工法	人力打設				
	3)コンクリートの計上	計上する				
	4)設計日打設量	-				
	5)養生工の種類	一般養生				
	6)圧送管延長距離区分	-				
	7)現場内小運搬の有無	無し				
	8)打設高さ、水平打設距離	-				
	10)規格区分	18-8-40(高炉B) W/C65%				
	単 価		m3			
	*** S単 - 11号 ***					
	SP 型枠		m ²		1.000 m ²	歩A 当たり算出
	SP 型枠 一般型枠,鉄筋・無筋構造物			冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0 会社割引補正:なし 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	豪雪補正:10% 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)型枠の種類	一般型枠				
	2)構造物の種類	鉄筋・無筋構造物				
	単 価		m ²			
	*** S単 - 12号 ***					
	SP 目地板		m ²		1.000 m ²	歩A 当たり算出
	SP 目地板 計上する,目地板(澀青質板) t=10mm			冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0 会社割引補正:なし 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	豪雪補正:10% 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)目地板の計上	計上する				
	2)規格区分	目地板(澀青質板) t=10mm				
	単 価		m ²			
	*** S単 - 13号 ***					
	SP 下層路盤(車道・路肩部)		m ²		1.000 m ²	歩A 当たり算出
	SP 下層路盤(車道・路肩部) 100mm,1層施工,砕石,なし,再生クワッチャーラン RC-30			冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし	豪雪補正:10% 基本給時間:8.0	

数 量 集 計 表

種 別	細 別	規 格	単 位	算 式	数 量	備 考
作業土工						
	掘削	砂質土 t=13cm	m ³		24.1	
		砂質土 t=7cm	m ³		4.1	
	残土処理	砂質土	m ³		28.2	
コンクリート工						
	張コンクリート	18N t=7cm	m ²		58.2	
舗装工						
	表 層	再生密粒度As t=3cm	m ²		219.0	
	路 盤	RC-30 t=10cm	m ²		186.0	
構造物撤去工						
	舗装版切断	As t=3cm	m		165.0	
	舗装版破碎	As t=3cm	m ²		33.0	
	殻運搬処理		t	33.0 × 0.03 × 2.35	2.3	V=1.0m ³
目地補修工						
	充填目地	弾性シーリング材	m	73ヶ所 × 1.45m	105.9	

土 工 数 量 計 算 書

測 点	単 距 離	種 別	作 業 土 工			種 別	作 業 土 工			摘 要
		細 別 ・ 規 格	掘 削 砂 質 土 (t=13cm)		体 積	細 別 ・ 規 格	掘 削 砂 質 土 (t=7cm)			
			法 長	平 均		体 積				
路肩(右)										
NO. 0~NO. 5+23.0		L=273.0m	0.5m × 0.13m × 273.0m		17.7					
路肩(左)										
NO. 2+8.0~NO. 5+23.0		L=165.0m	0.3m × 0.13m × 165.0m		6.4					
路肩(左)										
NO. 3 +11.0						0.65				
NO. 4	39.0					0.55	0.60	1.6		
NO. 5	50.0					0.50	0.53	1.8		
NO. 5 +23.0	23.0					0.50	0.50	0.8		
進入路控除						3.0m × 0.5m × 0.07m × 2ヶ所			0.2	
合 計					m ³ 24.1			m ³ 4.1		

コンクリート工数量計算書

測 点	単 距 離	種 別	コンクリート工			種 別				摘 要
		細別・規格	張コンクリート (t=7cm)			細別・規格				
		修正距離	幅	平 均	面 積	修正距離				
NO. 3 +11.0			0.65							
NO. 4	39.0		0.55	0.60	23.4					
NO. 5	50.0		0.50	0.53	26.3					
NO. 5 +23.0	23.0		0.50	0.50	11.5					
進入路控除		3.0m×0.5m×2ヶ所			3.0					
合 計					58.2 m ²					

道 路 工 数 量 計 算 書

測 点	単 距 離	種 別	舗装工			種 別	舗装工			摘 要
		細別・規格	表層 再生密粒度As (t=3cm)			細別・規格	路盤 RC-30 (t=10cm)			
		修正距離	幅	平 均	面 積	修正距離	幅	平 均	面 積	
路肩(右)										
NO. 0			0.5			0.5				
NO. 1	50.0		0.5	0.50	25.0	0.5	0.50	25.0		
NO. 2	50.0		0.5	0.50	25.0	0.5	0.50	25.0		
NO. 3	50.0		0.5	0.50	25.0	0.5	0.50	25.0		
NO. 4	50.0		0.5	0.50	25.0	0.5	0.50	25.0		
NO. 5	50.0		0.5	0.50	25.0	0.5	0.50	25.0		
+23.0	23.0		0.5	0.50	11.5	0.5	0.50	11.5		
路肩(左)										
NO. 2 +8.0			0.5			0.3				
NO. 3	42.0		0.5	0.50	21.0	0.3	0.30	12.6		
NO. 4	50.0		0.5	0.50	25.0	0.3	0.30	15.0		
NO. 5	50.0		0.5	0.50	25.0	0.3	0.30	15.0		
NO. 5 +23.0	23.0		0.5	0.50	11.5	0.3	0.30	6.9		
合 計					m2 219.0			m2 186.0		

構 造 物 撤 去 工 数 量 計 算 書

測 点	単 距 離	種 別	構造物取壊し工			種 別				摘 要
		細別・規格	舗装版破碎 As(t=3.0cm)			細別・規格				
		修正距離	幅	平 均	面 積	修正距離	幅	平 均	面 積	
路肩(左)										
NO. 2 +8.0			0.2							
NO. 3	42.0		0.2	0.20	8.4					
NO. 4	50.0		0.2	0.20	10.0					
NO. 5	50.0		0.2	0.20	10.0					
NO. 5 +23.0	23.0		0.2	0.20	4.6					
合 計	m 165.0				m2 33.0					

コンクリート補修工数量計算書

目地補修工

10m当り

構 造 図	名 称	規 格	計 算 式	単 位	数 量
	(材料数量)				
	充填材 弾性シーリング材	1成分形	$0.2\text{m} \times 0.1\text{m} \times 10\text{m} \times 1000\text{l}/\text{m}^3$	m ℓ	200
	プライマー		$0.1\text{m} \times 2 \times 10\text{m} \times 0.2\text{l}/\text{m}^2$	g	400